

34:11 来なさい。子たちよ私に聞きなさい。

【主】を恐れることを教えよう。

34:12 いのちを喜びとする人はだれか。幸せ

を見ようと日数の多いことを愛する人は。

34:13 あなたの舌に悪口を言わせず唇に欺き

を語らせるな。

34:14 悪を離れて善を行い平和を求めそれを

追い続けよ。

34:15 【主】の目は正しい人たちの上にあり

主の耳は彼らの叫びに傾けられる。

34:16 【主】の御顔は悪をなす者どもに敵対

し主は彼らの記憶を地から消し去られる。

34:17 苦しむ者が叫ぶと【主】は聞かれその

すべての苦難から救い出してください。

34:18 【主】は心の打ち砕かれた者の近く

におられ霊の砕かれた者を救われる。

34:19 正しい人には苦しみが深い。しかし

【主】はそのすべてから救い出してください。

34:20 主は彼の骨をことごとく守りその一つ

さえ折られることはない。

34:21 悪は悪しき者を殺し正しい人を憎む者

は責めを負う。

34:22 【主】はそのしもべのたましいを贖い

出される。主に身を避ける人はだれも責めを

負わない。

ダビデは神に失望したくなるような出来事が多くありましたが、どこまでも神を信頼し続けました。その結果、王となり、その国は繁栄しました。「子どもたちよ」とありますから、これは彼の本心からの教えであり、ぜひとも知らせておきたいことなのだと思います。それは「主の目は正しい者に向き、その耳は彼らの叫びに傾けられる。」ということです。

これは彼の信仰の経験から来る確証です。彼はちょっと頼って、失望すればやめてしまうというような、いい加減な信仰ではありませんでした。主の前に正しくありたいと思えば、自分の命をねらうサウル王にさえ忠誠を誓ったのです。

「正しい者の悩みは多い」というのが彼の実感でしょう。それはまた、悩みが多いのは自分の正しさから来ているのだという、自負もあったと思われまます。またそれは喜びでもありました。

主の御心を行う人生は簡単ではありません。しかしそれは勝利への道であり、祝福の条件です。またそれは主を愛する者の喜びでもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

